



欧州企業の知財分野での生成 AI 活用について

欧州の企業および特許専門家は、生成 AI を知的財産(IP)業務に積極的に統合し、特許出願プロセスの効率化、先行技術調査の精度向上、IP 戦略の高度化を実現している。本レポートは、欧州における生成 AI 活用の全体像、具体的なユースケース、主要企業の取り組み、法的課題、そして将来展望を詳細に分析する。

1. 知財分野における生成 AI 活用の全体像とユースケース

1.1 先行技術調査(Prior Art Search)

欧州の特許実務において、生成 AI は先行技術調査を劇的に変革している。従来のキーワードベースの検索では見逃されがちな概念的に類似した特許を、AI は意味的理解に基づいて発見できる。^{[1][2][3]}

欧州特許弁理士向けの実践的研修プログラムでは、400 人以上の特許実務家が AI 支援特許作成の訓練を受けている。これらの専門家は、AI が時間のかかる作業の多くを自動化することで、戦略的な側面(クレーム作成や法的分析など)に集中できると報告している。^[2]

1.2 特許明細書のドラフト作成

生成 AI は、発明開示から詳細な明細書の作成まで、特許ドラフト作成の全過程を支援している。AI ツールは、技術的入力を要約し、代替実施形態を探索し、法的観点を検討するアイデーションパートナーとして機能する。^{[4][2]}

欧州の特許実務家は、AI を「支援」として位置づけており、「置き換え」ではない点を強調している。最も高度な大規模言語モデル(LLM)でさえ、特許出願プロセスに不可欠な法的・ビジネス上の判断を下すことができないため、人間の専門知識が不可欠である。^{[2][4]}

1.3 審査官対応(Office Action Response)

生成 AI ツールは、欧州特許審査における審査官対応を効率化している。AI は先行技術を要約し、引用文献間の相互関係を分析し、引用された参考文献と請求された発明との相違点を強調することができる。^[4]

特許弁理士は通常、審査官の異議を最小限の範囲変更で克服しようとするが、AI ツールは明細書から審査官の懸念に対処する文言を迅速かつ正確に抽出し、発明の望ましい範囲を維持しながら複数の補正選択肢を提供する。^[4]

1.4 商標クリアランス調査

AI は商標クリアランス調査においても重要な役割を果たしている。機械学習、自然言語処理、パターン認識などの先進技術を活用し、大規模データセットを迅速に分析し、微妙な類似性を特定し、エラーを最小限に抑える実用的な洞察を提供する。^{[5][6]}

欧州の法律事務所 Dreyfus & associés は、BranDiligence™プラットフォームの公式検証者として認定されており、この AI ツールは商標類似性分析を自動化・安全化する。このプラットフォームは、数十の類似商標を瞬時に分析し、EUIPO、WIPO、USPTO などの国際商標登録機関と接続している。^[6]

1.5 契約書分析と IP 管理

生成 AI は、契約書レビュー、ライセンス契約分析、特許ポートフォリオ管理など、より広範な IP 業務にも適用されている。AI ツールは予測分析を使用して個別特許のパフォーマンスと将来性を評価し、引用パターン、市場関連性、技術トレンドを分析することで、組織が戦略的価値の低い特許を特定し、投資の優先順位を決定できるようにする。^[7]

2. 欧州主要企業の生成 AI 導入事例

2.1 Siemens(シーメンス)

Siemens は欧州を代表する AI 特許出願企業であり、2022 年には欧州特許庁(EPO)に 1,735 件の特許出願を行った。同社の IP 戦略における AI 活用分野には、データセキュリティ、機械学習、人工知能、モデリングとシミュレーション、スマートシティの輸送、積層造形、ブロックチェーンが含まれる。^{[8][9]}

2025 年の AI&IP Forum Munich では、Siemens の企業知的財産支援責任者 Michael Gollwitzer が、AI 技術が特許戦略、ドラフト作成、審査にどのように変革をもたらしているかについて議論した。

Siemens は、Solve Intelligence などの先進的な AI 特許ドラフト作成ツールを使用している企業の一つである。^{[9][10][11]}

2.2 Bosch(ボッシュ)

Bosch は欧州の AI 特許出願で最も活発な企業であり、2018 年以降 1,000 件以上の AI 発明に関する特許出願を行っている。同社は 2022 年に 102 件の AI 関連特許出願(深層学習、ファジー論理、機械学習の分野)を行い、欧州で最も多くの出願を記録した。^{[12][13]}

Bosch は生成 AI と基盤モデル(ChatGPT など)が提供する新たな機会を積極的に活用している。同社の AI 専門家は、これらの新しい AI モデルが提供する具体的な用途を研究しており、約 60 の潜在的なユースケースを検討中である。一例として、AI 駆動検索は、会社内に既存の知識へのより簡単なアクセスとより徹底的な活用を可能にする。^[13]

2.3 BASF(バスフ)

BASF は化学業界における生成 AI の先駆的採用企業である。2025 年の AI&IP Forum Munich では、BASF のデータ分析・人工知能チームリーダーである Dr. Marc Jäger が、AI 特許保護に関する戦略的洞察を共有した。^[14]

BASF 知的財産シンポジウムでは、特許時代の生成 AI に関する詳細な分析が行われ、AI 特許出願の統計、AI 中心の発明の特許化戦略、特許実務家向けの AI ツールが議論された。同社は、AI ツールが特許ドラフト作成において誤った情報を事実として述べる「ハルシネーション」などの懸念を認識しつつも、慎重に AI を統合している。^[14]

2.4 Philips(フィリップス)

オランダの電子機器企業 Philips は、医療技術分野における AI 特許出願で主導的な地位を占めている。同社は欧州特許庁における医療技術・AI 発明のトップ 10 出願企業の一つであり、特に画像解析とパターン認識システムに注力している。^{[15][16][17]}

Philips は、IPRally などの先進的な AI 特許検索プラットフォームの初期顧客の一つであり、知的財産専門家および R&D エンジニアが直感的に検索クエリを構築し、既存の類似特許を正確に検索できるようにしている。^[18]

2.5 Roche(ロシュ)

スイスの製薬大手 Roche は、バイオテクノロジー・化学分野における AI 特許ポートフォリオで際立っている。同社は医療技術における AI 特許の最も価値のあるポートフォリオの一つを保有しており、特に画像解析とパターン認識に焦点を当てている。^[15]

2025 年の AI&IP Forum Munich では、Roche の New Modality IP のチャプターリードである Andres Buser が、新しいモダリティ領域における AI 特許戦略について議論した。^[9]

3. 欧州の AI 特許ツール・サービス提供企業

3.1 IPRally(フィンランド)

IPRally は、フィンランド・ヘルシンキを拠点とする AI 特許検索エンジンのパイオニアである。2018 年に元特許弁理士 Sakari Arvela と共同創業者らによって設立され、知識グラフベースの特許検索エンジンを構築している。^{[19][20][18]}

同社の独自技術は、グラフニューラルネットワークを使用して特許データの技術的・意味的理解を可能にし、正確なキーワードマッチや特許専門家の技術的専門知識への依存を減らしている。IPRally は、実世界の特許審査官のように「考える」ようにニューラルネットワークを訓練しており、時間は数分の一である。^[19]

2023 年に Endeit Capital が主導した 1,000 万ユーロのシリーズ A 投資を調達し、顧客には Google、Unilever、ABB、Philips、Spotify、Saint-Gobain、KONE、Fresenius Medical Care などが含まれる。^{[20][21][18]}

3.2 Ampercite(オーストラリア/欧州展開)

Ampercite は、ネットワーク分析とディープラーニングを応用した革新的な特許検索ツールを提供している。同プラットフォームは、1 億 7,500 万以上の特許引用のグローバルデータベースに高度なネットワーク分析アルゴリズムとディープラーニングを適用し、数秒で最も類似・関連性の高い特許を提供する。^{[22][23][24]}

独立研究により、Ampercite は既存の検索プロセスを補完するツールとして使用した場合、検索品質を 12%から 46%向上させることが証明されており、意味ベースの検索アルゴリズムを上回っている。^{[23][25]}

3.3 Solve Intelligence(英国/グローバル展開)

Solve Intelligence は、2023 年に設立された AI 駆動特許ドラフト作成プラットフォームであり、欧州、米国、アジアの 200 以上の IP チームに利用されている。同社は 2025 年に Microsoft と Thomson Reuters の戦略的支援を受けて 1,200 万ドルのシリーズ A 資金調達を完了した。^{[10][11]}

Solve のプラットフォームは、Google Docs のように機能するブラウザ内ドキュメントエディタを提供し、AI モデルを搭載して特許弁護士がドラフト作成、審査官対応、クレームチャート作成、発明開示の生成・強化を支援する。欧州の顧客には、Siemens、Avery Dennison、DLA Piper などが含まれる。^{[11][10]}

3.4 Patentfield、PatSeer、その他のツール

欧州の特許専門家は、Patentfield、PatSeer、Global Patent Search、NLPatent、Octimine、LexisNexis TotalPatent One、The Lens、IamIP など、さまざまな AI 駆動特許検索ツールを使用している。^{[3][11]}

これらのプラットフォームは、セマンティック検索、多言語サポート、パターン認識、予測分析などの機能を提供し、特許専門家が関連する先行技術をより迅速かつ包括的に発見できるようにしている。^{[11][3]}

4. 生成 AI 活用のメリット

4.1 研究開発の加速

生成 AI は、R&D プロセスを大幅に加速させている。AI ツールは、大量の技術文献と特許データを数秒で分析し、研究者が技術トレンド、新興技術、潜在的な協力機会を迅速に特定できるようにする。^{[7][4]}

欧州特許庁のデータによると、AI 関連の発明は急増しており、2024 年には前年比で大幅な増加を記録した。これは、AI 技術がイノベーションの重要な推進力となっていることを示している。^[26]

4.2 出願プロセスの効率化

AI 支援ドラフト作成は、特許出願作成の時間を大幅に削減している。実務家の報告によると、Solve Intelligence などのツールを使用することで、ドラフト作成時間が 30%から 60%削減され、特許弁護士は高付加価値の戦略的業務により多くの時間を割くことができる。^[11]

欧州の特許弁理士研修プログラムでは、AI が日常的なドラフト作成タスクを処理することで、弁理士が戦略的側面(クレーム作成や法的分析など)に集中し、より効率的に作業できることが強調されている。^[24]

4.3 IP 管理コストの削減

AI ツールは、IP 管理の多くの側面を自動化することでコストを削減している。予測分析は、組織が戦略的価値の低い特許を特定し、更新期限を追跡し、管轄区域のコンプライアンスを監視するのを支援する。^[25]

欧州の中小企業にとって、AI 駆動ツールは特に価値がある。欧州特許庁の統一特許システムでは、欧州の中小企業と大学の 57.5%が統一特許を申請しており、これはシステムが費用対効果の高い保護を提供していることを示している。^[26]

4.4 知財戦略策定の高度化

AI は、特許ポートフォリオ分析、競合ベンチマーキング、技術ランドスケーピングにおいて前例のない洞察を提供している。AI ツールは、引用パターン、市場関連性、技術トレンドを分析することで、組織が情報に基づいた戦略的決定を下すことを可能にする。^[27]

欧州企業は、AI を使用して地理的特許インサイトを取得し、有利な出願環境や高いイノベーション生産性を持つ管轄区域を特定している。これにより、企業は急成長市場に焦点を当て、規制上の課題がある地域を避けることができる。^[28]

5. 課題とリスク

5.1 機密情報の漏洩リスク

欧州の特許専門家にとって最大の懸念の一つは、機密性の維持である。欧州特許協会(epi)のガイドラインは、「いかなる種類の AI を専門業務に使用する場合でも、会員は最高水準の誠実性を採用し、必要に応じて機密性を維持するためにあらゆる合理的な措置を講じなければならない」と強調している。^{[27][28][29]}

多くの特許事務所は、機密保持の懸念から AI ツールの使用を禁止するか、厳格なプロトコルを実施している。特許弁理士は、AI ツールのプロンプト機密性、データ保持ポリシー、第三者アクセスについて徹底的に理解する必要がある。^{[29][30]}

Solve Intelligence などの先進的なプラットフォームは、これらの懸念に対処するため、ユーザーがアップロードまたは出力したデータを一切 AI モデルのトレーニングに使用せず、すべてのデータを暗号化し、SOC 2、GDPR、CCPA、ISO 42001 認証に準拠していることを保証している。^{[30][11]}

5.2 AI が生成した内容の正確性と信頼性

生成 AI ツールは「ハルシネーション」として知られる問題に悩まされており、虚偽の情報を事実として提示することがある。これは特許ドラフト作成において特に問題であり、不正確な情報は特許出願の却下や法的紛争につながる可能性がある。^[14]

欧州特許庁のガイドラインは、AI で作成されたかどうかにかかわらず、当事者とその代理人は特許出願と欧州特許庁への提出物の内容に責任を負い、欧州特許条約(EPC)の要件に準拠する必要があることを明確にしている。^{[31][32]}

epi ガイドラインは、会員が使用する生成 AI モデルの弱点について可能な限り情報を得ることが専門性の本質的特徴であると強調している。^[28]

5.3 専門家の判断の代替可能性

欧州の特許実務における重要な原則は、AI が人間の専門知識を置き換えるのではなく、支援することである。最も高度な LLM でさえ、特許出願プロセスに不可欠な法的・ビジネス上の判断を下すことができないため、エンドツーエンドの特許ドラフト作成は不可能である。^[2]

欧州特許庁の審判部は、大規模言語モデル(LLM)を特許性評価における「当業者」として位置づける試みを却下しており、決定 T1193/23 でこの立場を確認した。この決定は、AI システムがどれほど洗練されていても、人間の専門知識を置き換えることはできないことを強化している。^[9]

5.4 データバイアスと公平性

生成 AI モデルは、トレーニングデータに存在するバイアスを永続化する可能性がある。欧州連合の AI 法は、高リスク AI アプリケーションに対して、バイアスを軽減するために偏りのないデータセットでトレーニングする必要があると義務付けている。^{[33][34]}

特許分野において、バイアスのある AI ツールは、特定の技術分野、管轄区域、または出願人を優遇する検索結果やドラフト提案につながる可能性がある。欧州の特許専門家は、AI ツールのトレーニングデータと潜在的なバイアスを認識する必要がある。

6. 法的論点:AI 生成発明と発明者性

6.1 発明者としての AI:欧州の法的立場

欧州における明確なコンセンサスは、**AI は特許の発明者として指名できない**ということである。欧州特許庁、スイス連邦行政裁判所、ドイツ連邦最高裁判所を含む複数の欧州管轄区域が、有名な「DABUS」事件において、AI システムは発明者として指名できないと判断した。^{[35][36][37][38]}

6.2 DABUS 事件:画期的な判例

DABUS の創設者 Stephen Thaler は、欧州特許庁(EP 18 275 163 および EP 18 275 174)に DABUS を発明者として指名した特許出願を提出した。2019 年、欧州特許庁の受理部は、以下の主な理由により両出願を拒否した:^[35]

1. 発明者は、EPC 第 81 条および規則 19(1)に基づき自然人でなければならない
2. AI からの権利移転は不可能である。なぜなら、機械は法人格を持たず、したがって出願人に権利を譲渡できないからである

欧州特許庁は、機械を発明者として指名することは、EPC の法的要件を満たさないと結論付けた。^[35]

6.3 スイスの判決

2025 年 6 月 26 日、スイス連邦行政裁判所は決定 B-2532/2024(「DABUS」事件)において、AI システムはスイス連邦知的財産研究所に提出された特許出願において発明者として指名できないことを確認した。^[35]

裁判官は、意識の要件を理由に、自然人のみが発明者になれると判決した。しかし、発明につながった AI プロセスに貢献した人物が発明者となり得るというニュアンスを加えた。^[35]

6.4 ドイツの判決

2024 年 6 月 11 日、ドイツ連邦最高裁判所は DABUS 事件(AZ X ZB 5/22)において、AI のみを発明者として言及する出願は不適格であると判決した。法律は生きている人物を指名することを要求しているためである。^{[36][37]}

裁判所は、出願人は出願書類の指定された発明者と明細書の発明者について矛盾する記述を避けなければならないと付け加えた。^[36]

6.5 IP5 の共通見解

世界最大の知的財産庁の集まりである IP5(EPO、USPTO、JPO、KIPO、CNIPA)は、共通の見解を共有している:現行法の下で AI は発明者として認識できない。^[35]

管轄区域によって手続き上のニュアンスは異なるが、コンセンサスは以下の通りである:

- AI 生成発明は、人間の発明者が特定されれば特許可能である
- どの国も、AI のみを発明者として指名した特許をその後の法的逆転なしに付与していない^[35]

7. 著作権と生成 AI:欧州の法的枠組み

7.1 EU 著作権指令とテキスト・データマイニング

欧州連合のデジタル単一市場における著作権指令(DSM 指令)は、AI モデルのトレーニングに使用される著作物に関する主要な法的枠組みを提供している。同指令は、テキスト・データマイニング(TDM)のための限定的な例外を導入している。^{[39][40][41][42]}

2024 年、ハンブルク地方裁判所は、Kneschke v. LAION e.V.事件において、LAION が Kneschke の著作権を侵害していないと判決した。なぜなら、写真の使用は、ドイツ著作権法により科学研究目的のテキスト・データマイニング(TDM)の例外で許可されていたからである。^[43]

これは EU の DSM 指令によって導入された TDM の法的根拠の最初の司法審査であり、AI モデルのビッグデータ収集の法的根拠として機能する可能性がある。^[43]

7.2 AI 生成コンテンツの著作権保護

チェコの裁判所は、AI 生成作品は著作権法の下で保護を享受できないと判決した。プラハ裁判所は、AI 生成作品は創造者である自然人の創造活動の独自の結果として作成されていないため、概念的特性を満たしていないと述べた。^[44]

しかし、裁判所は、出願人が AI 生成作品につながった指示を提供したという十分な証拠を提供していれば、出願人の著作者性の可能性を完全には排除しなかった。^[44]

7.3 欧州連合知的財産庁(EUIPO)の研究

EUIPO は 2025 年に著作権の観点から生成 AI に関する広範な研究を発表した。報告書は、以下を指摘している:^{[45][39]}

- 著作権保持者が権利を留保するための「万能」ソリューションはまだ出現していない
- 合成コンテンツの性質を識別・開示するための共通標準の欠如が強調されている
- 一連の法的紛争が進行中であるが、著作権保持者と生成 AI 開発者の間でいくつかの合意が成立している

報告書は、公的機関が権利留保データベースの確立を支援すべきであると提案している。^{[39][45]}

7.4 Like Company v. Google:CJEU 初の AI 著作権事件

欧州司法裁判所(CJEU)は、生成 AI の文脈における著作権に関する初めての事件を受理した。ハンガリーの出版社 Like Company は、Google の Gemini チャットボットが記事の詳細な要約を生成した後、Google Ireland を訴えた。^{[46][47]}

ハンガリー最高裁判所は、以下の 3 つの重要な質問を CJEU に付託した:

1. 保護された要素を再現する AI 生成コンテンツは「公衆への伝達」として認定されるか?
2. そのような出力は、別途公開されていなくても「無許可の複製」とみなされるか?
3. この使用は EU 法の下で例外または制限に該当する可能性があるか?^{[47][46]}

CJEU の判決は、ChatGPT、Gemini、Claude などの LLM に対する EU 市場全体のルールを設定する。^[46]

8. 欧州特許庁(EPO)の見解とガイドライン

8.1 EPO の AI ポリシー

2025 年 2 月、欧州特許庁は包括的な AI ポリシーを発表し、AI 採用のための戦略的方向性と一般原則を概説した。主要な原則には以下が含まれる:^[48]

1. **EPO は AI フレンドリーである:** EPO は、サービスと管理の有効性、品質、適時性を改善することを目指しており、AI はこれを迅速、効率的、安全、持続可能な方法で達成するための重要な実現要素として特定されている。^[48]

2. **人間中心のアプローチ:**人間+AI の組み合わせは、品質と効率の面でいずれか単独よりも優れた結果を提供するため、AI 採用は人間中心であるべきである。^[48]
3. **基本的権利の尊重:**EPO は、適正手続き権、個人データとプライバシーの保護権、公序の原則などの基本的権利に違反する AI システムを使用しないことを約束している。^[48]

8.2 法的対話プラットフォーム(LIP)

2025 年 2 月、欧州特許庁は画期的な AI 駆動法的検索ツールである法的対話プラットフォーム(LIP)を開始した。これは、MyEPO サービススイートに追加される最初の生成 AI ベースのツールである。^[49]

LIP は、ユーザーが会話形式でクエリを定式化できるようにし、応答を迅速に生成し、短い要約と関連する法的文書への直接リンクを提供する。このプラットフォームは、約 6,000 ページの特許法と手続きから情報を正確に特定できる。

8.3 特許審査における AI

EPO は、特許審査プロセスのさまざまな側面で AI と機械学習を積極的に使用している。^{[50][51]}

- **先行技術検索の自動化:**入ってくる特許出願の先行技術の自動検索とクエリの自動生成
- **特許分類:**協力特許分類(CPC)スキームに従った特許文書の自動分類
- **画像検索:**特許図面の自動図形・画像検索
- **特許審査管理:**特許文献の自動注釈、特許文書における問題/解決策の自動検出

8.4 2025 年 EPO ガイドラインの更新

2025 年 4 月 1 日に発効した EPO ガイドラインの 2025 年版には、人工知能発明に関する重要な更新が含まれている。^{[52][32][31]}

- AI 発明の開示の十分性と特許性に関する明確化
- AI と機械学習ベースの発明に対する EPO 審査官の現在のアプローチを反映した詳細なガイダンス
- AI で作成されたかどうかにかかわらず、当事者とその代理人は特許出願と提出物の内容に責任を負うという注意喚起^[31]

8.5 EU AI 法と EPO

EU AI 法は 2024 年 8 月に発効し、リスクベースのアプローチを導入した:^{[34][33]}

- **許容不可能なリスク:**潜在意識的操作、脆弱性の搾取、公共空間におけるリアルタイム生体認証などの禁止分野
- **高リスク:**健康、安全、基本的権利、または環境に悪影響を与える可能性のある AI アプリケーションに対する適合性評価の対象
- **限定リスク:**ディープフェイク、感情認識システム、チャットボットに対する透明性要件
- **最小リスク:**スパムフィルター、ビデオゲームなどに特定の義務なし^[34]

現在、EPO はこれらの問題について立場を表明していない。特許保持者と革新的企業にとって、禁止またはリスクの高いカテゴリに該当する要素を特許出願に含めることを避けることが推奨される。

^[34]

9. 欧州法律事務所の AI 特許サービス

9.1 DLA Piper

DLA Piper は、欧州および世界全体で AI 法律サービスのリーダーとして浮上している。2024 年、同事務所の生成 AI 戦略は、フィナンシャル・タイムズの Innovative Lawyer Awards で欧州で最も革新的であると認められた。^{[53][54]}

同事務所は、100 人以上の弁護士、データサイエンティスト、政策・学術分野の専門家からなるチームを通じて包括的な AI 戦略を開発・実現している。サービスには以下が含まれる:^{[55][56]}

- AI 企業とベンチャーキャピタルへの支援
- EU AI 法コンプライアンスに関する詳細なガイダンス
- 生成 AI、知的財産、データに関する専門的助言
- 高度な AI 関連執行と訴訟

DLA Piper は、Solve Intelligence などの先進的な AI 特許ドラフト作成ツールを使用するクライアントの一つである。^[10]

9.2 その他の主要な欧州法律事務所

以下の事務所も、AI 特許サービスにおいて活発である:

- **Linklaters:**アジア、欧州、英国のチームでグローバルな TMT 実務を持ち、この分野における複雑な業務を処理している^[57]
- **CMS:**複数の欧州管轄区域にわたる AI 特許助言を提供
- **Novagraaf:**AI 支援発明と AI 著作権紛争に関する専門知識^{[44][35]}
- **Dreyfus & associés:**AI 駆動商標類似性分析プラットフォームの公式検証者^[6]

10. 将来のトレンドと展望

10.1 AI 特許出願の継続的成長

欧州特許庁のデータは、AI 関連発明の継続的な成長を示している。2024 年、コンピュータ技術が初めて首位を占め、AI 発明とバッテリー発明の急増が見られた。^[26]

欧州企業からの出願は 0.3%増加し、政治的・経済的不確実性にもかかわらず技術的实力と継続的な R&D 投資を示している。^[26]

10.2 統一特許システムの拡大

2023 年に開始された統一特許システムは勢いを増しており、18 の EU 加盟国にわたって単一の要求でより簡単でよりアクセスしやすい特許保護を提供している。2024 年には 28,000 件以上の要求があり、2023 年と比較して 53%増加した。^[26]

欧州の中小企業は、統一特許の採用率が 57.5%と特に高く、システムが費用対効果の高い保護を提供していることを示している。^[26]

10.3 AI 審査ツールの高度化

EPO は、次世代 IT ツールの開発を継続している:^[58]

- ****Ansera-based Search(AbS)**への移行:**16 の NPO がすでに EPOQUE Net を廃止し、1,900 人以上の国内審査官が現在 AbS を使用している
- **AI 駆動ツールの拡大:**協力特許分類(CPC)テキスト分類器などの AI 駆動ツールへの安全なアクセスの提供

- ****デジタルツールキット(DTK)**パイロット:NPO がエンドツーエンドのデジタル特許ワークフローを実装できる柔軟でモジュール式のシステム**^[58]

10.4 データ機密性とプライバシーの重要性の増大

GDPR 施行以来、欧州はデータプライバシーと機密性において世界的リーダーとなっている。これにより、欧州企業はデータを節約する AI 手法により多く投資するようになった。^[59]

特許ツールプロバイダーは、SOC 2、GDPR、CCPA、ISO 42001 などの最高のセキュリティ基準に準拠し、クライアントデータが保護され、AI モデルのトレーニングに使用されないことを保証する必要がある。^{[29][30][11]}

10.5 協力とクロスライセンスの増加

AI が産業全体でより統合されるにつれて、協力とクロスライセンス契約がますます重要になる。これらの契約により、企業は重要な AI 技術へのアクセスを共有しながら、高額な訴訟を回避し、イノベーションを促進できる。^[60]

標準必須特許(SEP)は、AI 駆動イノベーションが産業全体で標準化されるにつれて、重要な焦点分野となる可能性がある。AI 特許を持つ企業は、公正、合理的、非差別的(FRAND)ライセンス義務を理解する必要がある。^[60]

10.6 規制の調和

欧州委員会は、イノベーションと著作権者の権利のバランスを取るために、入力/出力の区別に関する明確な規則、調和されたオプトアウトメカニズム、透明性義務、公平なライセンスモデルを求めている。^[42]

欧州議会は、創造性、著作者性、機械生成表現の進化する現実を反映した改革をリードすることが期待されている。^[42]

結論

欧州企業は、知的財産分野における生成 AI の採用において世界的なリーダーとなっている。

Siemens、Bosch、Philips、BASF、Roche などの主要企業は、AI を特許戦略、ドラフト作成、審査に統合し、効率性、品質、競争優位性において大きな利益を実現している。^{[16][12][8][13][9]}

IPRally、Ambercite、Solve Intelligence などの欧州のテクノロジー企業は、特許専門家のニーズに特化した最先端の AI ツールを開発している。これらのプラットフォームは、先行技術検索から特許ドラフト作成、審査官対応、ポートフォリオ管理まで、知財ライフサイクル全体にわたって支援を提供している。 [22][18][19][10][11]

しかし、機密性、正確性、専門家の判断、データバイアスに関する重大な課題が残っている。欧州特許協会、欧州特許庁、EU AI 法は、これらの懸念に対処するための包括的なガイドラインと規制を提供している。 [27][28][33][39][29][34][48]

発明者性と著作権に関する法的枠組みは進化し続けており、複数の欧州管轄区域が AI は発明者として指名できないことを確認している。欧州司法裁判所は、生成 AI と著作権に関する初の事件を審理しており、LLM プロバイダーに対する欧州市場全体のルールを設定する可能性がある。

[37][38][47][46][36][35]

今後を見据えると、欧州の AI 特許エコシステムは、継続的な成長、技術的高度化、規制の調和によって特徴づけられる。統一特許システムは勢いを増しており、EPO は審査プロセスを強化するための次世代 AI ツールを開発している。協力、クロスライセンス、公正なライセンス慣行は、イノベーションを促進しながら、すべての利害関係者の権利を保護する上で重要な役割を果たす。 [60][58][26]

欧州企業、特許専門家、政策立案者がこの変革期をナビゲートする中で、イノベーションと保護のバランスを取り、機密性を維持し、専門家の判断を維持しながら AI の変革力を活用することが重要である。欧州は、知的財産における AI の責任ある倫理的な使用のグローバル基準を設定する有利な立場にある。 [55][53][39][42]

*
**

1. <https://projectpq.ai/top-ai-patent-search-tools/>
2. <https://information.patentepi.org/issue-2-2025/ai-assisted-patent-drafting.html>
3. <https://www.solveintelligence.com/blog/post/prior-art-search-ai-tools>
4. <https://www.solveintelligence.com/blog/post/european-patent-prosecution-with-generative-ai>
5. <https://patentpc.com/blog/how-ai-reduces-errors-in-trademark-clearance-searches>
6. <https://www.dreyfus.fr/en/ai-powered-trademark-similarity-analysis/>

7. <https://future-bridge.eu/ai-in-patent-analysis-and-management/>
8. <https://www.eenewseurope.com/en/huawei-tops-european-top-ten-patent-list-siemens-top-in-germany/>
9. <https://www.solveintelligence.com/blog/post/ai-patent-protection-in-europe-strategic-insights>
10. <https://techcrunch.com/2025/04/09/microsoft-backs-solve-intelligence-in-12m-series-a-funding/>
11. <https://www.solveintelligence.com>
12. <https://sciencebusiness.net/news/r-d-funding/rush-european-ai-patents-bosch-leading-successful-german-pack>
13. <https://www.bosch-presse.de/pressportal/de/en/from-research-to-application-bosch-drives-forward-the-use-of-artificial-intelligence-255168.html>
14. <https://polsinelli.giassets.com/content/uploads/2023/10/BASF-2023-08-24-IP-Symposium-Deck-GenAI-and-Patents-1.pdf>
15. <https://royalsociety.org/-/media/policy/projects/science-in-the-age-of-ai/science-ai-related-inventions-report.pdf>
16. <https://www.cadda.org/2025/07/10/how-ai-is-shaping-the-future-of-medtech/>
17. https://www.wipo.int/patentscope/en/docs/econsight_ai_en.pdf
18. <https://spintopventures.com/iprally-raises-e2-million-to-build-the-patent-search-engine-2-0/>
19. <https://techcrunch.com/2023/03/21/iprally-a-patent-search-engine-powered-by-explainable-ai-raises-10-8m/>
20. <https://www.iprally.com/news/press-release-iprally-raises-eu10m-to-accelerate-patent-intelligence-ai>
21. <https://endeit.com/news/subject/iprally-after-endeits-investment-scaling-innovation-and-transforming-patent-research/>
22. <https://www.ambercite.com>
23. <https://inspire.wipo.int/ambercite-ai>
24. <https://www.ambercite.com/ambercite-ai>
25. <https://app.inspire.sak.principal.wipo.int/ambercite-ai>
26. <https://www.epo.org/en/news-events/press-centre/press-release/2025/1352247>
27. <https://bestpatent.eu/understanding-the-new-epi-guidelines-on-generative-ai-for-patent-attorneys/>
28. <https://www.nlo.eu/en/news/future-patent-law-practice-integrating-generative-ai>

29. <https://ipkitten.blogspot.com/2025/10/use-of-ai-in-patent-industry-solving.html>
30. <https://www.solveintelligence.com/blog/post/ai-data-confidentiality-patent-drafting>
31. <https://www.dyoung.com/en/knowledgebank/articles/updated-epo-guidelines-april-2025>
32. <https://www.lavoix.eu/new-version-of-epo-guidelines/?lang=en>
33. <https://erislaw.se/artiklar/the-new-swedish-patent-law-and-the-eu-ai-act-a-comprehensive-analysis/>
34. <https://www.jacobacci.com/en/news/artificial-intelligence-and-patents-a-guide-to-the-patentability-of-ai>
35. <https://www.novagraaf.com/en/insights/ai-assisted-inventions-why-artificial-intelligence-cannot-yet-be-inventor>
36. <https://www.lawsociety.ie/gazette/top-stories/2024/july/current-law-does-not-cater-for-ai-inventions>
37. <https://www.nortonrosefulbright.com/en/knowledge/publications/7de4a9ba/germany-ai-cannot-be-named-as-inventor-insights-from-the-bundesgerichtshofs-dabus-decision>
38. <https://www.epo.org/en/news-events/news/ai-cannot-be-named-inventor-patent-applications>
39. <https://ec-europa-eu.libguides.com/ai-and-intellectual-property/eu-publications/selected>
40. <https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0267364924001328>
41. <https://www.bruegel.org/analysis/european-union-still-caught-ai-copyright-bind>
42. [https://www.europarl.europa.eu/RegData/etudes/STUD/2025/774095/IUST_STU\(2025\)774095_EN.pdf](https://www.europarl.europa.eu/RegData/etudes/STUD/2025/774095/IUST_STU(2025)774095_EN.pdf)
43. <https://www.odipi.si/en/generative-ai-and-copyright-the-first-court-case-in-europe/>
44. <https://www.novagraaf.com/en/insights/ai-and-copyright-first-ruling-european-court>
45. https://www.linkedin.com/posts/luca-bertuzzi-186729130_the-euipo-european-union-intellectual-activity-7326568506374647808-Otbw
46. <https://www.gamingtechlaw.com/2025/07/generative-ai-copyright-eu-vs-us-legal-battle-for-the-future/>
47. <https://verfassungsblog.de/copyright-ai-cjeu/>
48. <https://link.epo.org/web/about-us/transparency-portal/en-epo-ai-policy.pdf>
49. <https://www.epo.org/en/news-events/news/myepo-services-launch-groundbreaking-ai-powered-legal-search-tool>
50. https://www.wipo.int/edocs/mdocs/wild/en/wild_1/wild_1_t07_4.pdf
51. <https://www.wipo.int/en/web/ai-tools-services/ipos-initiatives>

52. <https://www.vennershipley.com/insights-events/navigating-ai-patents-key-updates-from-epo-and-ukipo-guidelines/>
53. <https://www.dlapiper.com/news/2024/09/dla-pipers-generative-ai-strategy-named-most-innovative-in-europe-at-ft-innovative-lawyer-awards>
54. <https://www.dlapiper.com/news/2025/06/financial-times-names-dla-piper-one-of-the-most-innovative-firms-of-the-last-two-decades>
55. <https://www.klover.ai/dla-piper-ai-strategic-positioning-in-legal-ai/>
56. <https://www.dlapiper.com/en/capabilities/industry/technology/artificial-intelligence-data-analytics>
57. <https://chambers.com/legal-rankings/tmt-global-multi-jurisdictional-2:556:21180:1>
58. <https://www.epo.org/en/news-events/news/latest-advances-next-generation-it-tools>
59. <https://cepr.org/voxeu/columns/redirecting-ai-privacy-regulation-and-future-artificial-intelligence>
60. <https://patentpc.com/blog/the-future-of-ai-patents-trends-and-predictions>
61. <https://www.deepip.ai/blog/deepip-ai-compliance-codes-conduct>
62. <https://www.epo.org/en/news-events/news/technology-standards-and-patents-europes-digital-future>
63. <https://www.loeb.com/en/insights/publications/2025/02/ai-outlook-2025-celebrating-client-innovation-and-exploring-future-trends>
64. <https://www.epo.org/en/news-events/in-focus/ict/artificial-intelligence>
65. <https://www.reuters.com/technology/eu-ditches-plans-regulate-tech-patents-ai-liability-online-privacy-2025-02-12/>
66. <https://hai.stanford.edu/ai-index/2025-ai-index-report>
67. https://reports.weforum.org/docs/WEF_Top_10_Emerging_Technologies_of_2025.pdf
68. <https://www.boult.com/bulletin/updates-to-epo-guidelines-relating-to-artificial-intelligence/>
69. <https://forum-institut.de/seminar/25121132-patent-drafting-with-local-generative-ai>
70. [https://www.wipo.int/web-publications/patent-landscape-report-generative-artificial-intelligence-genai/assets/62504/Generative AI - PLR EN WEB2.pdf](https://www.wipo.int/web-publications/patent-landscape-report-generative-artificial-intelligence-genai/assets/62504/Generative_AI_-_PLR_EN_WEB2.pdf)
71. <https://www.mishcon.com/generative-ai-intellectual-property-cases-and-policy-tracker>
72. <https://www.gov.uk/government/news/powerful-new-search-tool-will-help-ipo-maintain-patent-quality>

73. <https://ipauthor.com/generative-ai-patent-drafting-by-ip-author/>
74. <https://www.patentscan.ai/blog/using-ai-to-find-patent-prior-art-faster-a-legal-guide-483m>
75. <https://ipquants.com/category/generative-ai/>
76. <https://academic.oup.com/policyandsociety/article/44/1/23/7606572>
77. <https://ipkitten.blogspot.com/2024/11/guestpost-how-european-patent-office.html>
78. <https://legalblogs.wolterskluwer.com/patent-blog/epo-guidelines-on-patentability-of-artificial-intelligence-and-machine-learning/>
79. <https://www.aha.org/aha-center-health-innovation-market-scan/2023-06-20-analyzing-ais-explosive-growth-and-where-patents-are-concentrated>
80. <https://www.iprally.com/rallycast/top-5-use-cases-to-unlock-with-patent-ai>
81. <https://www.epo.org/en/news-events/news/guidelines-2025-enter-force>
82. <https://insights.greyb.com/artificial-intelligence-patent-landscape/>
83. <https://slashdot.org/software/patent-research/in-europe/>
84. <https://thehub.io/startups/iprally-technologies-oy>
85. <https://patents.google.com/patent/US20170161635A1/en>
86. <https://www.solveintelligence.com/blog/post/best-ai-patent-drafting-tools>
87. https://www.dpma.de/english/services/public_relations/press_releases/18march2024/index.html
88. <https://www.iprally.com>
89. <https://ttms.com/10-examples-of-innovative-use-of-ai-tools-in-law-firms-in-2025/>
90. https://report.basf.com/2023/en/_assets/downloads/entire-basf-ar23.pdf
91. <https://www.eu-startups.com/directory/iprally/>
92. <https://kirp.pl/wp-content/uploads/2025/05/rekomendacje-ENG-NET.pdf>
93. <https://www.awa.com/services/artificial-intelligence/>
94. <https://clarivate.com/intellectual-property/ip-management-software/rowan-patents/>
95. <https://www.dreyfus.fr/en/2025/03/24/the-protection-of-ai-generated-inventions-under-patent-law/>

96. <https://patentmaker.eu>
97. <https://hyaip.com/en/artificial-intelligence-in-the-ip-legal-sector/>
98. <https://sustainabletechpartner.com/topics/ai/generative-ai-lawsuit-timeline/>
99. <https://www.fondo.com/blog/solve-intelligence-launches>
100. <https://ipbusinessacademy.org/revolutionizing-ip-management-daniel-holzner-on-ai-driven-innovation-in-patent-processes>
101. https://single-market-economy.ec.europa.eu/industry/strategy/intellectual-property_en
102. <https://www.ft.com/content/f94ad6b1-44fe-409b-a06c-3328d3513df4>
103. <https://www.patenttext.com/blog-posts/best-ai-patent-drafting-tools>
104. <http://ijream.org/papers/IJREAMV09I01SJ021.pdf>
105. <https://www.g2.com/products/solve-intelligence-patent-copilot/reviews>
106. <https://www.epo.org/en/about-us/social-responsibility/art/50-years-epc-exhibition/catalyst-lab-curated-ars-electronica/epo-statement>
107. <https://chambers.com/legal-rankings/intellectual-property-london-firms-1:34:11814:1>